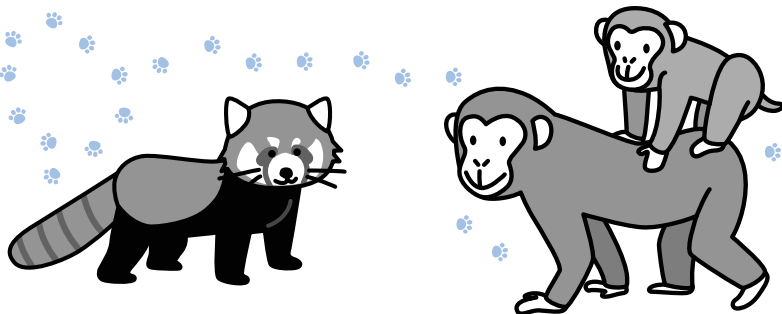




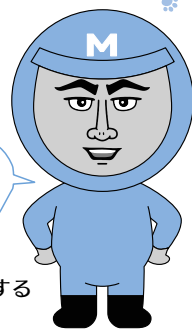
ますます進化する 円山動物園

開園から65年目を迎える今も、市民の憩いの場として親しまれ続けている円山動物園。園内には、動物の生息環境に近づくことで、本来の行動が見られるように工夫を凝らした新たな施設が次々とオープンしています。この特集では、動物園が果たす役割を振り返るとともに、今後完成する施設や冬の見どころなどを紹介します。

この特集に関する問い合わせは、円山動物園 ☎ 621-1426

私と一緒に
見ていこう

マルヤマン
動物をこよなく愛する
ベテラン飼育員



動物園の歴史を振り返る

昭和
26年～

多くの市民の声を受けて誕生
動物や施設の充実を図りながら発展

昭和25年に札幌にやってきた東京都恩賜上野動物園の移動動物園の成功を機に、市民の声の高まりを受けて開園。その後、動物の種類・数の充実や、動物舎の整備などを進め、市民の憩いの場として定着していきました。



開園当時の様子。当初はオオワシ、エゾヒグマ、エゾシカの3種4点のみの展示でした

現在

動物を通して環境を守る大切さを伝える場に

地球規模の環境の悪化による野生動物の減少などを背景に、動物園は自然を守る大切さを伝える役割も担うことに。生息環境に近づけた施設を整備するほか、ホッキョクグマなどの希少動物の繁殖にも力を入れています。

円山動物園の役割

レクリエーション機能

環境教育

種の保存

動物の調査・研究

⇒ 人・動物・環境の
絆をつくる動物園に

円山動物園の歩み

- | | |
|-------|---|
| 昭和26年 | 道内初の動物園として開園 |
| 昭和28年 | ゾウの「花子」来園 |
| 昭和41年 | 熱帯動物館完成、冬季開園を開始 |
| 昭和49年 | 年間入園者数が過去最高の124万人を記録 |
| 昭和52年 | 類人猿館完成 |
| 昭和53年 | 猛きん舎完成 |
| 昭和55年 | 世界の熊館完成 |
| 昭和57年 | サル山完成 |
| 昭和59年 | モンキーハウス完成 |
| 平成7年 | 熱帯鳥類館完成 |
| 平成12年 | チンパンジー館完成 |
| 平成19年 | 将来の動物園の姿を示す「基本構想」策定 |
| 平成20年 | エゾシカ・オオカミ舎完成
今後10年間の整備予定などを定める「基本計画」策定 |
| 平成22年 | エゾヒグマ館完成 |
| 平成23年 | は虫類・両生類館完成 |
| 平成24年 | わくわくアジアゾーン完成 |